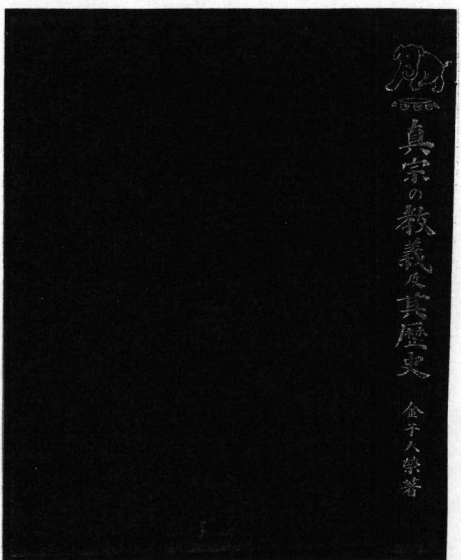


金子大栄 おおいと 佛敎學者。明治十四年一月、二百新潟縣生れ、昭和五  
十一年十月、二百日没（二八二一七）。明治二十七年真宗大學卒。清澤滿  
之の浩々洞々入門。大正四年雜誌『精神界』主筆、翌年大谷大學敎授、  
十五年『佛座』創刊。昭和二年著書『いよいよ異安心いあんしんとせられく僧籍  
剝奪、敎授解職と、十七年復歸。二十五年個人誌『全人』發刊、四十  
六年待董寮頭。『金子大學選集』全二十卷（昭和二十年一四十年刊）、  
『金子大學著作集』全十二卷別卷四卷（昭和五十五年一六十年刊）が  
あり。

著書『真宗の敎義及其歴史』（七版・大正十一年十一月十五日無我山  
房）、『佛敎概論』（大正八年六月四日岩波書店）、『浄土の觀念』  
（大正十四年一月十五日文榮堂）、『彼岸の世界』（大正十四年九月  
十日岩波書店）、『敎行信證の概要』（昭和二年八月二十日岩波書  
店）、『大乘佛敎の中心思想』（昭和二年一月十日、百東方書院、『昭和  
新黨國譯大藏經』附録）、『清澤滿之』（合著・觀語社編、昭和二年  
九月二十日觀語社）、『歎異鈔』（校訂、昭和六年六月五日岩波書店  
、『岩波文庫』）、『佛敎の諸問題』  
（昭和九年九月二十日岩波書  
店）、『國家理想とこれの四十八  
願』（大無量壽經）（昭和十年九  
月十五日日本文化協會出版部）、  
『日本佛敎史觀』（昭和十五年四  
月八日岩波書店）、『二經義疏と  
日本文化』（昭和十五年九月八日敎學高論『日本精神叢書』）、『精



進一ある人の問に答へく』(勤勞者教育中央會編、昭和十六年九月五日)  
『白雲堂書店「日本勤勞叢書」』(、『雜華錄』(昭和二十一年十月二十日)  
白創元社「石花文庫」)、 『歸依と行善』(昭和二十一年十一月十日)  
京都・全人社)、 『佛道史觀』(昭和二十一年五月二十日)  
白社(慶應義塾)、 『月愛二昧』(昭和二十一年八月二十日)  
京都・全人社)、 『無盡燈』(昭和二十四年二月二十日)  
京都・全人社)、 『永遠と死』(昭和二十四年八月五日)  
京都・全人社)、 『教行信證の研究』(昭和二十一年一月二十日)  
白岩波書店)、 『親鸞著「教行信證」』(校訂、昭和二十一年十月七)  
白岩波書店「岩波文庫」)、 『東洋とは何なり』(合著、大阪)  
文化協會編、昭和四十年十一月十八日)  
大阪、大阪仏教文化協會)、 『人生と語らる』(昭和四十二年八月十日)  
白岩波書店)、 『マタ文庫』等。  
菊村紀彦著『金子大栄一人と思想』(昭和五十年十一月十日)  
読売新聞社)刊。